

令和元年度 清新地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月13日(水)午後7時から午後8時35分まで
- 2 場 所 清新公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、隠田副市長、藤田中央区長、石井企画財政局理事、
岩本経済部長、山口広域交流拠点推進部長、鈴木中央区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 31人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	神奈川医療少年院の跡地利用について
概要	<p>神奈川医療少年院については、昭和28年4月に開庁し、25年後の昭和53年3月に神奈川医療少年院として改め、41年後の平成31年3月に閉庁した。これまで、66年間にわたり、地域住民は、この施設で少年が未来に向かって学ぶ営みを見守り支援してきた。</p> <p>以前から、医療少年院と道路の境には草木が生い茂り、防犯や美観の面からも思わしくなく、自治会でも年2回清掃を行うほか、地域の有志で組織する相模線桜並木保存実行委員会を中心に、草木の刈り取り、清掃、芝桜の植樹をするなど美化活動に努めており、地域の方に親しまれる場所になっている。</p> <p>敷地約4万㎡という、広い場所は清新地区にはなく、自然を残したままこの跡地を利用したいと考えている。</p> <p>昨年のまちづくり懇談会でも示したが、地域としては「子どもから高齢者まで誰もが利用できる地域コミュニティの場やスポーツ等の活動の場として、神奈川医療少年院の施設を利用し、地域に人の交流が生まれる場として生かしたい。」と考えている。市の考えを再度伺いながら、懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>平成31年2月の清新地区まちづくり会議において、法務省の担当から、以下のような神奈川医療少年院閉庁後の跡地活用の話があった。「跡地は財務省に引き継ぐ予定であったが、引き続き法務省が所管することとなり、新たな少年院を整備することを検討している。まだ、決定してはいない。」とのことであった。しかし、その後は法務省側からの情報・連絡は何もない状況である。</p> <p>また、平成30年9月に清新地区まちづくり会議でまとめた、「次期総合計画・都市計画マスタープラン清新地区まちづくり会議報告書」においても、地域住民が利活用できる形での跡地利用を要請している。</p> <p>地域住民からは、「以前少年院時代の脱走事件の記憶が残っていて不安である。」とか、「この貴重な一等地を少年院として利用するのはもったいない。まちづくりに生かすべきだ。」、「景観が地域の一体感を失わせている。」等々の声が聞かれる。</p> <p>66年間、施設を見守り支援してきた地域としては、上記のような思いと近くにリニア新幹線の駅もできることから、今後の跡地使用については、地域発展のために相模原市の理解、支援を求めたい。</p> <p>国からの提示を待つばかりでは、当地区のまちづくりへの対応が遅くなってし</p>

	<p>まう。</p> <p>同地を新たなまちづくりに活用する方策や手段など、是非ともお考えいただき、市から国に対して積極的に働きかけをし、地域を支援いただきたい。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>神奈川医療少年院の跡地利用については、昨年のまちづくり懇談会においても議題となり、その時点では、国において当該土地をどう活用するかの明確な方向性が示されていなかった。市としては、当該跡地に関する検討は行ってないこと及び今後情報収集に努め、国の動向を注視していくとの回答を行った。</p> <p>その後、平成31年2月の清新地区まちづくり会議において、法務省担当者から、東京矯正管区内に所在する少年院を集約し、医療少年院跡地に新たな少年院を整備することを法務省本省に要請している旨の説明がされた。</p> <p>神奈川医療少年院を所管する法務省東京矯正管区は、関東地方1都6県に新潟県、長野県、山梨県及び静岡県を加えた地域に所在する、刑務所や少年院の運営及び指導監督をしている機関である。</p> <p>現在、管区内には14箇所の少年院があり、近いところでは、八王子市にある多摩少年院があげられる。最近の動向としては、小田原少年院、本市の神奈川医療少年院及び府中市の関東医療少年院が廃止しており、そのうち神奈川医療少年院と関東医療少年院が統合され、昭島市に東日本少年矯正医療・教育センターが新設された。</p> <p>今年の5月と10月に、法務省担当者（東京矯正管区職員）に検討状況を確認したところ、法務省本省としての方針はまだ示されていないとのことであった。</p> <p>神奈川医療少年院については、地域の皆さんによる施設周辺の除草や清掃、芝桜の植樹などの環境整備活動や少年院行事への参加など、地域の理解と協力のもと、少年の更生のための教育が行われていたものと承知している。</p> <p>国に対しては、このような今までの地域の取組を理解した上で、跡地利用の方向性が固まる前に、地域への説明等をしっかりと行い、地域住民の思いに耳を傾けてもらうよう伝えている。</p> <p>今後について、市としては、引き続き国の動向を注視するとともに、地域への情報提供に努めていく。地域の皆様の意見等をしっかりと受け止め、国への働きかけや国、地域、市の情報交換の場の確保などに積極的に取り組んでいく。</p> <p>（中央区役所）</p>
懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>66年前の少年院設立当初、当該施設の周りは雑木林であったが、市の発展とともに清新地区にも住宅や学校、商業施設等の集まる住みやすい地域へと変化していった。</p> <p>以前は暗く通りづらかった相模線沿線の通りや小山公園から国道16号に抜ける通りは、地域で草木の剪定や芝桜の植樹等を行い、今では明るく一体感のある景観となった。通勤や通学等、広く地域住民に利用してもらっている。</p> <p>少年院は必要な施設であると思うが、清新地区の整った住宅環境の中で、少年院が景観に馴染んでいないのではないかと思う。</p> <p>現在は法務省の土地ではあるが、この環境にふさわしい地域コミュニティやスポーツ等の活動の場として活用していくことを検討いただきたい。</p>

市の発言	<p>66年という年月とともに地域の環境も変化してきていると思う。 数は少ないが、施設の一部を開放し、地域に活用してもらっている少年院もある。 地域が抱える心配や要望等をまとめ、地域の方々と一緒になって、国に要望を届けていきたいと考えている。(中央区役所)</p>
地区の発言	<p>当該跡地がある通りには、小山中学校、小山小学校、小原公園が一体的に並んでおり、国道16号を越えて通学してくる子ども達の通学路にもなっている。 また、橋本方面へ向かう高校生も多く通学に利用し、日中では未就園児の多くが小原公園で遊んでいる。 このように、幼児から学生まで多くの子ども達が頻繁に利用する場所であるため、少年院が再開するようなことになれば非常に不安であり、少年院の設置場所としてふさわしくないと考えている。 法務省の土地ではあるが、地域住民にとって安全・安心かつ有益な土地の活用を心から要望している。</p>
市の発言	<p>神奈川県医療少年院と小山小学校等の設立の経過のなかでは、神奈川県医療少年院の土地にまず、小山公園と小山中学校を整備した。小山公園の土地は半分を無償貸与、半分を有償とされ、その後、小山公園内の無償貸与部分を小原公園に、有償部分に小山小学校を整備した経過がある。 いずれにしても、通学利用者の往来の多い場所であるため、地域の不安の声を国に届けていきたいと考えている。(中央区役所)</p>
地区の発言	<p>市として反対の意見だけでは難しいと考えるため、市内で代替地を検討してもらいたい。</p>
市の発言	<p>代替地は難しいかもしれないが、そのような意見も踏まえ、今後お話をさせていただきたい。(中央区役所)</p>
市の発言	<p>本日、法務省の意向を確認したところ、当該跡地に少年院を整備したいとの考えは変わっていないとのことであった。 仮に法務省が土地を活用しない場合、所管は財務省に移され、財務省でも活用が見込まれなければ、市に対し購入の意向確認がある。市も購入しなかった場合、民間に売却される流れとなる。 ご意見いただいた代替地の検討についても、可能性はあると考えている。 現在の跡地について、法務省が活用を検討している間、地域に貸与してもらえないか等、市が法務省に要望することも考えられる。活用について地域の方々と一緒に考えていきたい。 まずは、清新地区として、どんな施設が欲しいか等を具体的に話し合っただき、地区の方向性を示していただきたい。(市長)</p>

テーマ 2	相模原駅周辺のまちづくりについて
概要	<p>現在、リニア中央新幹線の駅建設や相模総合補給廠の一部返還地等、これらを生かして広域交流拠点都市の形成が進められており、地元の清新地区においてもそれぞれの地区と連携してまちづくりを進める必要があると考えている。</p> <p>平成30年9月の「次期総合計画・都市計画マスタープラン清新地区まちづくり会議報告書」においても、橋本駅・相模原駅周辺の一体的なまちづくりの推進を図ることを提言している。</p> <p>また、小田急多摩線の延伸に関しては、JR相模原駅までの先行整備を進めていく方針も示されたところである。課題の収支採算性については、一部返還地の新たなまちづくりによる将来人口の定着が肝要になる。</p> <p>しかし、一部返還地の具体的な活用やJR相模原駅の南北の交流等を含めた相模原駅周辺のまちづくりのビジョンは地域には見えない状況である。</p> <p>地域としては、一部返還地の利用を考える上では、南北道路を夢大通りへ接続することによる駅南北の一体的な利用を強く要望するため、仮の道路でも構わないので早期に実現してほしい。</p> <p>それをきっかけにして、買物利用者が長く滞在し、商店街を散策して、楽しいまちであると思えるような魅力のあるまちにしたいと考えている。商店街を活性化させるため、商業施設の充実にもつながる重要なファクターであると思う。</p> <p>さらに、橋本・相模原両駅が魅力を高め合い一体的なまちを形成することにより、1つの地区では生み出せない多様なニーズに対応しうる交流拠点の創造を図りたいと考えている。</p> <p>そこで、地域住民の意見とともに市長の基本的方針・考え方をお聞きし、懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>国道16号沿いを中心として大型店舗が進出している一方で、地元の商店街の活力は失われてきている。商店会では、花のまちづくりみどりいっぱい事業や清新クリスマスフェスタ事業への参加等、努力を重ねているが、にぎわいと活気のある商店街とは言い切れない状況である。</p> <p>平成30年9月の「次期総合計画・都市計画マスタープラン清新地区まちづくり会議報告書」においては、利用者の目を引くような特色のある商店街を造ったり、相模原駅周辺地区の市街地整備計画と連携した店舗の誘導等を行うことを提言した。</p>
市の取組状況等	<p>駅南北の一体的な利用について、市では平成28年8月に策定した「市広域交流拠点整備計画」に基づき、橋本駅周辺と相模原駅周辺が持つそれぞれの特性を生かしながら、一体的なまちづくりを行うことで、本市が首都圏南西部全体の成長の源泉として、持続的に発展することを目指している。一部返還地のまちづくりは、周辺地区の今後の発展の起爆剤となるような新市街地の形成を目指し、広域交流機能や業務・行政・文化創造機能の導入を検討してきたが、これまでの調査結果や社会情勢の変化等を考慮し、改めて市民の皆様の御意見を踏まえ、まちづくりを進めることとしている。一部返還地のまちづくりにおいて、駅南北の連携強化は非常に重要であると認識していることから、相模原踏切を改良して自動車の相互通行を可能とし、南北道路と接続することについて調査・検討を行って</p>

	<p>きたが、小山踏切の交通量の約半分が相模原踏切に転換し、相模原踏切が歩行者ボトルネック踏切化することや、踏切遮断により周辺道路にまで及ぶ自動車の滞留が発生すること、更にはバスの発出に支障が生じることなど、交通事故の危険性及び交通渋滞の発生等、多大な影響が想定される結果となった。このため、市として、単に踏切を改良することは極めて困難な状況であると判断したことから、今後は他の方法を模索し、検討していきたい。</p> <p>交流拠点の創造について、一部返還地は、隣接する橋本駅にリニア中央新幹線の新駅が設置されることや、小田急多摩線の延伸、補給廠全面返還の可能性、多摩地域との連携等、他の地域にはない特性や高いポテンシャルを有しているものと認識している。</p> <p>こうしたことから、本市が更に発展していくためにはこれらの特性やポテンシャルを生かしたまちづくりが重要であり、橋本駅、相模原駅の両駅の周辺の魅力を高め合いながら、本市の核となるような、にぎわいと活力のある、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えている。</p> <p>まちづくりの今後について、市民アンケートや街頭アンケートを実施し、一部返還地のまちづくりのコンセプト案の策定を行っている。本年度、コンセプト案の取りまとめを行い、次年度以降、市民の皆様の御意見も踏まえながら、土地利用方針、土地利用計画の策定を予定している。</p> <p>その後、その土地利用計画に基づき、令和4年度を目標に国有財産審議会へ諮っていききたいと考えている。（広域交流拠点推進部）</p> <p>商店街の振興については、中央区を通じて、「商店街にぎわい支援事業補助金」や「商店街環境整備事業補助金」を、商店街が実施するイベント及び商店街が管理する街路灯の電気料等に対して交付し、にぎわいのある街づくりを支援している。実際に相模原東商店街や相模原西商店街、さがみ夢大通り商店街ではイルミネーションやアートフェスティバル等を実施していただいていることは承知している。</p> <p>市としては、相模原駅前のペDESTリアンデッキ上のイルミネーションについて、球切れが多く発生しているため、12月上旬までにすべての電球を新しいものに交換する予定である。</p> <p>今後、相模総合補給廠の一部返還地が活用され、駅の北側が活性化してきたときには、商店街のある南側も合わせて一体的なまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。（経済部）</p>
懇談内容	
地区の発言	<p>南北道路の夢大通りへの接続については、昨年度のまちづくり懇談会でも取り上げた内容であるが、市の取組状況を聞く限り、何も話が進んでいないように感じる。仮設道路の整備や、例えば踏切を4車線分大幅に広げる等、南北道路の接続の実現に向けて他に考えられる案を検討していただきたい。</p>

市の発言	相模総合補給廠の返還とともに南北一体のまちづくりも必須だと考えている。南北道路及び東西道路の整備はなされているが、活用がされていない。南北道路から夢大通りへの接続については課題が非常に多いが、例えば時間によって片側だけでも、通行可能にする等、できる方法を見つけるよう内部にも投げかけ議論しているところである。諦めずに引き続き取り組んでいきたいと考えている。 (市長)
地区の発言	南北道路を初めて使った感想として、非常に暗くて怖いと感じた。普段利用している利用者の中でも、夜は暗いため、利用しないという女性も多い。今後、防犯カメラ等の設置を考えているのか。
市の発言	現在、南北道路、東西道路合わせて、3箇所に防犯カメラを設置しているが、照明灯の設置基数等は今後確認していきたい。(広域交流拠点推進部)
市の発言	9月の補正予算で、市として初めて返還地のスポーツ・レクリエーションゾーンの整備に係る5億4千万円を計上したところである。来年度以降、一部供用を開始し、令和6年度までを目標に整備していく予定であり、遊具等を多く設置し子どもが集まる場所にしたいと考えている。当該地の整備が進めば隣接する南北道路・東西道路も少しずつ明るくなっていくと思う。(市長)
地区の発言	リニア中央新幹線の神奈川県駅について、マスコミでは「神奈川県駅」と称されており、市のイメージアップを図るには仮称であっても「相模原新駅」とした方がよいのではないかと。
市の発言	駅名については、現在「(仮称)神奈川県駅」となっており、正式な名称はまだ決まっていない。推測にはなるが、JR東海が神奈川、山梨、長野、岐阜、愛知の各県に1つずつ駅をつくるとしているため、環境影響評価等においても「(仮称)神奈川県駅」の名称としている。駅名は、シティセールスや、市のイメージアップにも繋がるため、今後もJR東海と調整していきたいと考えている。(広域交流拠点推進部)
市の発言	さがみ縦貫道路の整備の際も、相模原インターチェンジ及び相模原愛川インターチェンジの二つのインターチェンジに「相模原」と入れることができた。今回の駅名についても、市民の皆様にご理解いただけるような名称にしたいと考えている。皆様の中でいい案があれば積極的に教えていただきたい。(市長)
地区の発言	商店街はあるが入口がわかりづらく、どの通りがどの商店街なのかが認識されていない。また、利用者の楽しみを増やすために、大安売りの日を設けたり、夜間帯は車の交通規制をかけ、ゆっくり買い物できるようにする等を考えていただきたい。以前は西門商店街があり便利であったが、最近では商業施設が減少し、高齢者の買い物には不便を感じているため、駅周辺がもっと買い物しやすいような環境づくりをお願いしたい。
市の発言	魅力のある商店街づくりが重要であると認識している。まずは既存の商店街の方々と商店街を盛り上げていきたいと考えている。交通規制をかける等の意見についても一つの検討材料として、今後商店街の方々と話し合っていきたい。また、新たな取組として、イルミネーション等以外のことも検討していきたい。(経済部)

市長の感想等	<p>現在全22地区のまちづくり懇談会に出席中である。懇談会の中では地域の皆様から様々な意見をいただいております、意見に対して、できないではなく、知恵を絞ってできないか、チャレンジしていきたいと考えている。</p> <p>今回の医療少年院の話については、地域でどのようなものが欲しいか等の方向性を話し合っただき、地域の皆様をはじめ、地元議員の方々と行政で一緒になり様々な知恵を出し合い、意見を交わしていきたい。人口減少が進む中で、市全体が選ばれるまちを目指す必要があるが、その中でも清新地区の魅力が光るまちづくりを地域としても推進していただきたいと考えている。</p> <p>平成28年8月に相模原市広域交流拠点整備計画を策定した。自分が市長就任以前は、相模原駅に相模総合補給廠返還地の活用のイメージ図が貼られており、市民の方の中には、イメージ図のとおり整備されると思われていた方もいると思うが、あくまでイメージ図であり、決定事項ではない。小田急多摩線延伸についても、なにもなくても延伸が実現すると思われている方もいると思うが、実際は相当ハードルが高いものだと思っている。市民の方々に認識を改めていただくため、現在軌道修正しているところである</p> <p>小田急多摩線延伸については、市長に当選後に、小田急電鉄株式会社の社長と国土交通省の幹部とお会いし、延伸についての率直な思いを聞いたところ、実現はさせたいが、まだ課題が多いのではないかとのお話をいただいている。このことから、まちづくりをしっかりとしないと、延伸は実現しないと断言できる。相模総合補給廠の返還地も含め、駅南北を一体としたまちづくりをしていくことが延伸実現の可能性に繋がる。相模原市広域交流拠点整備計画では、小田急線唐木田駅から相模原駅間で延伸した場合の収支採算性を、昼間の人口が2万人、夜間の定住者は3千人増えるとしているが、この数値はあくまで以前のイメージ図からはじき出しているものである。</p> <p>市としては、駅で歩いている方に声をかけて、相模原駅周辺における課題や現状のイメージなどを聞くアンケート等を実施している。今後、これらの結果を踏まえコンセプト案をまとめ、計画の策定を行っていきたい。</p> <p>相模原駅と橋本駅の一体的なまちづくりを地域の皆様と対話をしながら一步一步進めていきたい。</p>
--------	---